



## 第1回 JFAST

JFAST (Japan Forum for Asian Science and Technology)

—アジアの科学技術イノベーションのための交流会—

2016年12月3日(土)

会場：日本橋ライフサイエンスビル2階会議室

(東京都中央区日本橋本町2-3-11)

主催：海外日本人研究者ネットワーク (UJA) JFAST 運営委員会

共催：国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 北京事務所

## ■ご挨拶

### コミュニティをつなげることの必要性

第一回 JFAST にご賛同、ご参加いただき、運営委員一同感謝しております。私自身、よりよい社会をつくっていくためには、多様なバックグラウンドを持った人たちによって構成される分野横断型ネットワーク（コミュニティ）が不可欠だと強く感じています。研究者という点では、とくに自然科学系研究者は、世界中に自主的な勉強会組織を作っていますが、地域、分野を超えた大規模な活動は未だ乏しく、また主催者が異動等で代わると自然消滅することもしばしばです。ビジネス業界においても同様であり、諸外国地域に R&D センター／部門を置く日系企業も多く、企業自身の世界戦略を考える上でも重要な研究者コミュニティとなっていますが、それぞれが横断するまでには至っていません。一方、政府や政府関係機関を見ると、外務省や文科省、経産省などやその関係機関の職員が世界各地に事務所を持っています。このように、世界中で政府関係機関のネットワークが形成されていますが、現場研究者、ビジネスパーソン、地域住民を含めたコミュニティ形成は乏しいのが現状です。また学術領域では、自然科学と人文・社会科学のあいだの交流は乏しいですし、さらにビジネス界や政府関係機関を横断しようとする、縦割り社会のシステムが根付いた日本人社会では形成されにくいのが現状です。JFAST は、分野を横断した共通のトピックを採用することによりこれらの問題を解消し、人口減少、超高齢化社会、エネルギー問題など、多くの課題を抱えた日本が、世界に先駆けて解決策を提示するのを後押しできるように、そしてこれからの 100 年を作り上げるために、垣根を越えた大きな分野横断型コミュニティを作る礎になると信じています。



北原 秀治 （きたはら しゅうじ）

JFAST 運営委員、海外日本人研究者ネットワーク  
マサチューセッツ総合病院／ハーバード医科大学院

## ■ご挨拶

第一回 JFAST にご参加・ご協力を頂きまして、共催者として感謝しております。挨拶の代わりに、海外日本人研究者ネットワーク (UJA) 中国コミュニティの在中日本人研究者の会の結成の経緯や本会の個人的な期待について書かせて頂きます。

今回の JFAST の運営組織である海外日本人研究者ネットワーク (UJA) の存在を私個人が知ったのは、2015 年初めだったかと思います。海外にいる日本人研究者がどのような活動をしているのか調べていたときに、米国にいる知り合いを通じて、ネットワークの存在を教えてもらいました。その後、私は北京事務所に転勤となりましたが、UJA のメンバからも転勤先の中国では UJA のコミュニティがないことを教えてもらっていましたので、中国にいる日本人研究者がいればコミュニティの場を作ってみようと思いました。中国国内の出張先でたまたま知り合った日本人研究者 5 名を 2016 年 5 月に北京で JST 中国総合研究交流センターが開催する日中大学フェア 2016 (<https://www.jcff.info/>) に来ませんかと声をかけたところ、皆さん自費で北京まで来ていただきました。そのメンバが中心となり、UJA の中国コミュニティができつつあります。中国の場合には、皆さんの居住地も西はラオス・ミャンマーとの国境沿いに位置する西双版纳 (シーサンパンナ)、南は福建省や香港、東は上海、北は北京と離れておりますし、専門分野も植物生理学、構造生物学、森林生態学、天文・宇宙科学、経済学、材料科学、理論物理学などのため、専門分野の話よりも現地の日常生活の話などもよく話題に出ます。連絡はメーリングリストや SNS での連絡が多いです。でも、ヒトはお互いの顔を見てコミュニケーションを取ることが大事かと思しますので、毎年中国で開催される日中大学フェアを利用して、メンバ同士が会ってもらえるような機会になればと個人的に思います。

欧米を中心に、日本人研究者コミュニティが集まって形成された UJA が、新たにアジアに着目し、アジアの科学技術イノベーションのための交流会を開催することは素晴らしいと思います。上述の通り、中国にも 20-70 代までの幅広い層の日本人研究者が PI (主任研究員、教授など) やポスドクで働く人が増えつつある中、メンバから生の話をしてもらうのは非常にタイムリーな機会ではないかと思い、共催させて頂きました。

異なる価値観をつなげるようなひとつの場が今回のイベントで生まれつつあるかと思います。人が変わっても、その場の形成を維持する努力を諦めずに泥臭く粘り強く継続されることを期待します。自分と異なる価値観の方や知らない方と交わるのはエネルギーのいることですが、社会への期待や自分が社会のために取り組みたいことに関する自分の考えなど、誠意を持って素直に話し相手の話も聞いてみれば、何か得られることはあるのではないかと個人的に思います。

本交流会に興味を持って参加頂いた皆さま、交流会で話題提供を頂く皆さま、交流会に協賛頂いた関係機関、運営に携わって頂いたボランティアの皆様に改めて感謝いたします。この機会を通じて、多様な形で皆さま個人のネットワークが益々形成されていくようになればと心より願っております。

岩城 拓 (いわき たく)

国立研究開発法人 科学技術振興機構 北京事務所



## ■プログラム

14:30 開場

15:00-15:10 開会挨拶

早野 元詞 氏 (UJA 戦略室 / HFSP フェロー / ハーバード医科大学院)

### 第1部 アジア・ハイテク産業の発展

15:10-16:10

元橋 一之 氏 (東京大学 工学系研究科 教授)

「上海のハイテククラスターと日米欧企業とのリンケージ」

16:10-16:55

武田 隆太 氏 (株式会社リバネス グローバルブリッジ研究所 所長)

「シンガポールはテクノロジーベンチャーの聖地になれるのか？－研究者が主体的に関わるベンチャー起業のかたち－」

※第1部モデレータ： 木村 公一朗 氏 (ジェトロ・アジア経済研究所 副主任研究員)

16:55-17:05 休憩

### 第2部 海外で研究することの意義と課題

17:05-17:20

清水 毅志 氏 (エルゼビア・ジャパン株式会社 ソリューションマネージャー)

「海外での研究経験は研究者のスキルを向上させるか？～論文データの分析から見えること～」

17:20-17:45

河野 洋治 氏 (中国科学院 上海植物逆境生物学研究中心 Junior Group Leader)

「中国のサイエンスの現状」

17:45-18:10

曲 寧 氏 (東京医科大学 人体構造学分野 講師)

「中国の小児科医が日本で基礎研究者になる道」

※第2部モデレータ： 三嶋 雄太 氏 (京都大学)

18:10-19:00 懇親会

※オーガナイザー： 早坂 藤乃 氏 (日本政策学校)

## ■講演者

### 1：上海のハイテククラスターと日米欧企業のリンケージ

中国は目覚ましい経済成長を遂げてきたが、研究開発力についても先進国に対して急速にキャッチアップしてきている。その背景には、日米欧の外資系企業が中国に研究開発拠点を設けて、現地企業との連携を強化していることにある。また、中国政府は、海外における中国人研究者を国内に呼び寄せる「海亀政策」に力を入れており、海外からの先端技術を積極的に取り込もうとしている。

ここでは、外資系企業との連携に対して特に力をいれている上海を取り上げて、エレクトロニクスやライフサイエンスを中心としたハイテククラスターの状況を紹介します。また、在外中国人や外資系企業の現地研究所と現地ハイテク企業の相互依存関係について分析を行い、日系企業が中国におけるイノベーションシステムを取り込むための方策について検討する。

### 元橋 一之（東京大学 工学系研究科 教授）

1986年に東京大学工学系研究科修士課程を修了し、通産省（経済産業省）入省。OECD科学技術産業局エコノミストなどを経て、2002年から一橋大学イノベーションセンター助教授、2004年から東京大学先端科学技術研究センター助教授。2006年から東京大学工学系研究科教授に就任、現在に至る。コーネル大学MBA、慶応大学博士（商学）。専門は、計量経済学、産業組織論、技術経営論。主な著書に『日はまた高く産業競争力の再生』（日本経済新聞社）などがある。

### 2：シンガポールはテクノロジーベンチャーの聖地になれるのか？

#### -研究者が主体的に関わるベンチャー起業のかたち-

2011年以降application scienceに力を入れているシンガポールでは、企業との産学連携の取組や、研究の事業化が強く推奨されています。そのような状況の中、キャリアパスの選択肢の一つとして、ベンチャー起業を考慮に入れる研究者も少なくありません。本講演では、シンガポール政府や大学の産学連携の取組を概観しながら、研究者達がどのようにベンチャーに関わっているのか事例を取り上げます。シンガポールのイノベーション戦略について理解を深め、またその中で個々の研究者がどのようにキャリアパスを描いているかについて、理解を深めることを目指します。

### 武田 隆太（株式会社リバネス グローバルブリッジ研究所 所長）

国際基督教大学卒業後、米国のオハイオ州立大学へ学位留学。植物病原体ウイロイドの構造を研究し、2011年にPh. D. 取得。リバネス入社後は人材開発事業部部長を経て、グローバルブリッジ研究所・所長に就任。リバネスの各事業の海外戦略、特にディープテクノロジー領域のベンチャーを発掘・育成するシードアクセラレーションプログラム「TEC PLANTER」や、民間による若手研究者向け研究助成金事業「リバネス研究費」の展開に取り組んでいる。また、2011年より米国子会社、Leave a Nest America Inc., Presidentを兼務。

## ■講演者

### 3：海外での研究経験は研究者のスキルを向上させるか？

#### ー論文データの分析から見えることー

研究者が海外で研究経験を得ることは、最先端技術の吸収や人脈作りを通じてその後のキャリア形成に大きく影響することは広く言われている。エルゼビア社では Scopus に収録された膨大な論文情報を分析し、海外での研究経験による論文の生産性やインパクトの差異を数値的に算出した。その結果、日本においては短期間でも国外経験を持つ研究者の方が国内のみに留まる研究者より、論文生産性で約 2.5 倍、インパクトで 1.5 倍以上の数値を示すことが分かった。発表では日本以外の国での上記指標の状況に加え、日本との論文共著（共同研究）が多いアジア諸国のランキング情報も紹介したい。

#### 清水 毅志（エルゼビア・ジャパン株式会社 ソリューションマネージャー）

米化学メーカーのデュポンを経て、2000 年にエルゼビアに入社。ライフサイエンスやエンジニアリングの学術データベース製品を中心に、大学から政府機関や企業までのマーケットを幅広く担当。2012 年よりリサーチマネジメント製品に専従。医科学修士（放射線腫瘍学専攻）

### 4：中国のサイエンスの現状

日中両方で、研究者として働いた演者が、現在の中国のサイエンスの現状を、自分の体験を中心に解説する。特に、近年の中国のサイエンスの躍進は、目覚ましいものがある。どのようなシステムにより、このような躍進がもたらされたか解説する。また、中国から見た日本の問題点、日本から見た中国の問題点も取り上げたい。最近、演者らは、在中日本人研究者の会を立ち上げた。その状況も紹介する。

#### 河野 洋治（中国科学院 上海植物逆境生物学研究中心 Junior Group Leader）

平成 13 年 3 月 奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科 博士後期課程 修了  
平成 13 年 4 月 名古屋大学・大学院医学系研究科・研究員  
平成 17 年 4 月 獨協医科大学・分子細胞生物学講座・助教  
平成 18 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科・研究員  
平成 22 年 4 月 奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科・助教  
平成 27 年 1 月 中国科学院・中国科学院上海植物逆境生物学研究中心・Junior Group Leader  
現在に至る

## ■講演者

### 5：中国の小児科医が日本で基礎研究者になる道

-2020年を目途に在日留学生を30万人まで増やす文部科学省の計画をふまえて-

文部科学省は、日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界の間の人・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指す「留学生30万人計画」を進行中である。外国人留学生総数を国公私立別に比較した文部科学省及び日本学生支援機構の調査によれば、約3分の1の大学院生が私立大学に在籍している。演者は中国で小児内科医としての経験を積んだ後、東京医科大学大学院に入学し、慣れない日本での生活や言語の壁を乗り越え、研究の魅力を実感した。また日本でいろいろな機会を頂戴し、今日まで成長させて頂いた。今回、大学教員の視点からこれまでの臨床経験と日本で修得した基礎医学知識を生かした教育と研究の経歴を紹介する。世界の学生・研究者がさらに研究への興味を深め、日本への留学に関心と呼び起こす一助となれば幸いである。

### 曲寧（東京医科大学 人体構造学分野 講師）

Education:

1988-1994 China Medical University, Awarded the degree of MD

2005-2008 Department of Anatomy, Tokyo Medical University,

Awarded the degree of PhD for a thesis entitled

Positions held:

1994-2000 Assistant Professor, Department of Internal Medicine, China Medical University (China)

2000-2005 Lecturer, Department of Internal Medicine, China Medical University (China)

2008-2011 Assistant Professor, Department of Anatomy, Tokyo Medical University (Japan)

2011- Lecturer, Department of Anatomy, Tokyo Medical University (Japan)

## ■海外日本人研究者ネットワーク (UJA) について

私たちは世界の日本人研究者コミュニティを繋ぐ、海外日本人研究者ネットワーク **United Japanese researchers Around the world (UJA)** を 2012 年に立ち上げました。個人としてまた国として、グローバル化に適応していくためには、世界に繋がるネットワークの構築が鍵になります。UJA は、世界各地の研究者が手を取り、日本学術振興会 (JSPS) ワシントンオフィスのご協力のもと発足し、民間企業様からのご支援をえて、活動を行っています。2016 年 6 月に米国マサチューセッツ州にて NPO として、そして 2016 年 8 月に日本国にて一般社団法人として登記を完了し、法人としてさらなる活発な活動ができるようになりました。

UJA は、日本人研究者が以下 3 つのミッションを遂行しています。

- 1：留学を考える人へ情報・支援を提供する窓口の整備
- 2：日本・国際舞台において活躍し続けるための相互支援とキャリアパスの透明化
- 3：教育・科学技術行政機関との情報交換および連携


研究者ネットワークの UJA だからこそ出来る活動にフォーカスし、日本の行政機関にフィードバックを行い、日本の科学技術の推進を目指しています。詳細は HP をご覧下さい。 <http://uja-info.org>


## ■ご寄附のお願い


JFASTプロジェクトの円滑な運営のため、クラウドファンディングを行っております。ご支援いただけます個人・企業のみならず、下記URLをご覧ください。よろしくお願いたします！


サイバーエージェントのMakuake：<https://www.makuake.com/project/jfast/>

## ■運営

主催： 海外日本人研究者ネットワーク（UJA） JFAST 運営委員会

共催： 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）北京事務所

協賛： 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）

 エルゼビア・ジャパン株式会社

 LIGHTHOUSE GLOBAL ライトハウス・グローバル株式会社

## JFAST 運営委員：企画、運営（敬称略）

北原 秀治（ハーバード医科大学院）

早野 元詞（ハーバード医科大学院）

今井 美沙（順天堂大学）

木村 公一朗（ジェトロ・アジア経済研究所）

早坂 藤乃（日本政策学校）

三嶋 雄太（京都大学）

## Special Thanks!（敬称略）

JFAST フライヤー、ロゴ作成：

上杉 浩隆

Web 制作：

高濱 真実

クラウドファンディング：

早坂 藤乃

## JFAST 関連サイト

UJA ホームページ内、JFAST のお知らせ

<http://uja-info.org/jfast/>

ハフィントンポスト記事

[http://www.huffingtonpost.jp/jpolicy/sti-community\\_b\\_13248164.html](http://www.huffingtonpost.jp/jpolicy/sti-community_b_13248164.html)

プレスリリース

[http://www.asahi.com/and\\_M/information/pressrelease/Cdpress000142923.html](http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/Cdpress000142923.html)

今後の JFAST プロジェクトに携わっていただけるボランティアの方を募集しております。ご興味のある方、もしくはご意見のある方は、[jfast1203@gmail.com](mailto:jfast1203@gmail.com) にご連絡ください。